

Environment

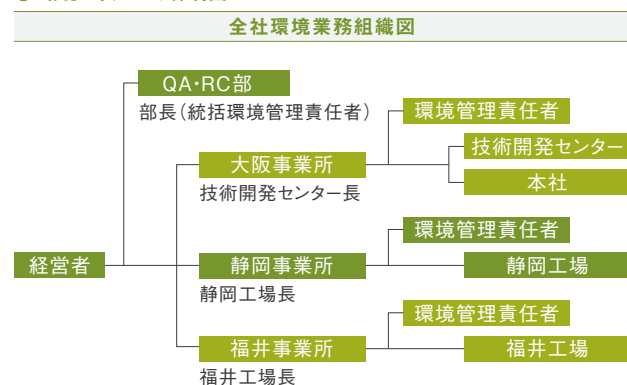
環境への取り組み



環境マネジメント体制

当社は、環境マネジメントシステムとして国際規格であるISO 14001の認証を大阪事業所、静岡事業所および福井事業所で取得しています。当社の企業理念、行動指針、全社方針(レスポンシブル・ケア方針、環境方針)に基づき、環境保全についての基本方針、および活動の基本事項を定めることにより環境保全に関する活動を総合的かつ計画的に推進し、合理的かつ円滑な事業所運営を行っています。

● 環境マネジメント体制図



レスポンシブル・ケア方針

レスポンシブル・ケア活動とは、化学品を取り扱う企業が、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動です。当社では、化学物質を製造し、取り扱う事業者として、自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から、廃棄に至る全ての過程において「環境・安全」を確保することを経営方針において公約し、安全・健康・環境面の対策を実行し改善を図っていく「レスポンシブル・ケア方針」を2005年4月1日に制定しました。持続可能な社会づくりを目指し、現在では「品質」を加えた、「環境」「品質」「安全」を3つの柱として事業活動を行っています。

環境方針

当社は、事業活動のあらゆる段階において、継続的な環境汚染の防止とともに環境保護に取り組み、全てのステークホルダーとの信頼関係を構築し、持続可能な社会づくりを目指します。

- ① 事業活動に関連する法律、同意するその他の要求事項や協定等を順守します。
- ② 製品の開発から廃棄に至る各段階において、環境影響を認識し、環境汚染の防止を推進し、継続的な改善活動に取り組みます。
- ③ 環境保護活動として、省エネルギー・省資源に取り組み、温室効果ガスの発生を抑制し、生物多様性に配慮し、地球環境と事業活動との調和を図ります。
- ④ 適切な化学物質の取り扱いや事業活動の改善による環境負荷物質の低減、廃棄物の削減を図ります。
- ⑤ この環境方針を達成するために環境目標を設定・レビューし、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- ⑥ この環境方針は、全社員に伝達し理解させるとともに、必要に応じて利害関係者へ公表します。

- ① 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクルにわたって、環境保護と環境負荷の軽減に努めます。
- ② 「安全第一」を基本とし、無事故、無災害を目指し、安全操業に努め、社員と社会の安全を確保します。
- ③ 取り扱う化学物質の安全性を確認し、社員、物流関係者、顧客など全てのステークホルダーへの安全・環境・健康に配慮します。
- ④ 顧客が満足し、信頼される品質の製品とサービスを安定的に提供します。
- ⑤ 安全、環境、品質に関する法律および当社が同意するその他の要求事項を順守するとともに、社会とのコミュニケーションを図り、信頼の向上に努めます。

マテリアルフロー

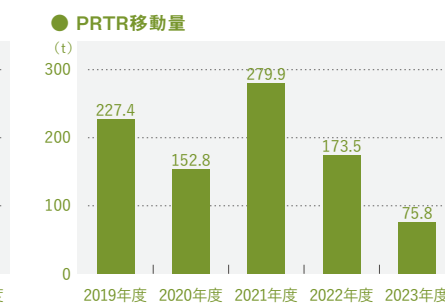
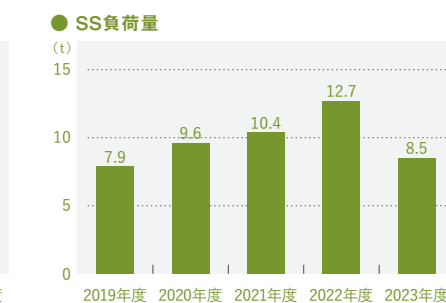
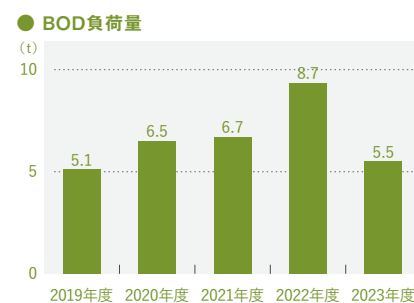
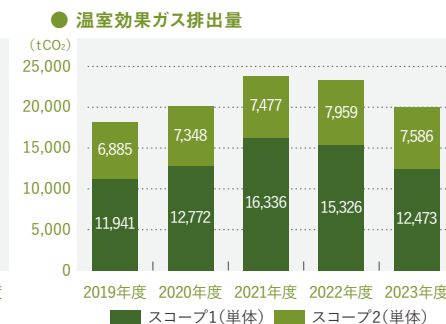
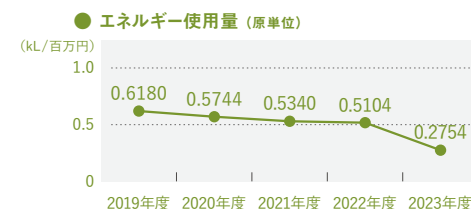
当社の2023年のマテリアルフローは以下になります。エネルギー、用水、原料等のインプットおよび環境排出物、製品等のアウトプットを示しています。

INPUT

エネルギー	電気	17,515千 kWh
	都市ガス	242千 m ³
	A重油	1,848 kL
	LPG	350 t
	原油換算	6,626 kL
用水		403.6千 m ³
原料		

OUTPUT

水域排出量	排水量	295.9千 m ³
	BOD総量	5.5 t
	SS総量	8.5 t
	PRTR物質	水域 0.02 t 下水 0.21 t
大気排出量	CO ₂ 排出量	19,332 tCO ₂
	PRTR物質	大気 7.5 t
産業廃棄物	総量	11,292.9 t
	内 社外排出量	1,814.7 t
	内 社内処分量	9,478.2 t
PRTR物質	事業所外移動量	75.8 t
製品		



VOICEインタビュー



静岡工場
管理課
主任
赤堀 博敏

環境管理について

私は、環境管理部門として工場運営に必要なエネルギー資源や廃液の管理を行っています。省エネ活動や再資源化の取り組みは、会社の利益に関わるだけでなく、環境保護にもつながります。新たな知識や勉強することが多く、非常にやりがいのある業務として日々取り組んでいます。